

スイキュオス・アングラトウス
アレチウリ (*Sicyos angulatus*)

【分類】双子葉植物、離弁花類、ウリ科、アレチウリ属 (=スイキュオス属)

【本種と近縁な未判定外来生物】なし

【本種を含む種類名証明書添付生物】アレチウリ属の全種

【その他の学名】なし

【外国名】Star cucumber、(One-seeded) Bur-cucumber

【別名・販売名】なし

【輸入・流通形態】意図的な輸入や流通はない。

【原産地と侵入地】北アメリカ原産、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニアに分布する。日本では全国に分布している。

【形態的特徴】

花：開花期は8～10月(写真1)。雄花と雌花が別々に集まって直径1cm程の黄白色の花序^{かじよ}*を形成し、葉の脇から出る。(写真2)。

茎：粗い毛を密生したつるで、巻きひげは3つに分かれ、他の物に巻きついて、長さ数十mになる(写真3)。

葉：葉身^{ようしん}*より葉の柄は短く、茎には互い違いにつく。葉の直径は10～20cm、3～7回浅く裂け、つけ根はハート形にくぼむ。縁には鋸歯^{きょし}*がある。葉の表も裏もざらざらしている(写真3)。



写真1 開花しているアレチウリ
(2007. 9. 24 / 千葉県千葉市坂月)



写真2 アレチウリの花 左：雄花、右：雌花
(2007. 9. 22 / 長野県上田市御所千曲川)



写真3 アレチウリの茎と巻きひげ(左)、実生(中)、生育後の葉(右)
(2007. 9. 1 / 東京都世田谷区二子玉川)

【生態的特徴】

生活型：陸生の一年草*。

生育環境：温帯～熱帯に分布する。林縁、荒地、河岸、河川敷、路傍、原野、畑地、樹園地、造林地などに生育する。日当たりの良い場所を好む。さまざまな土壌に生育できるが、腐植質の多い沖積地を好むため、有機質の多い汚染された河川の川岸に非常に多い。焼却炉やゴミ集積地付近にも多くみられる（写真4～写真6）。



写真4 河川敷を一面に覆うアレチウリ
奥の林はハリエンジュ、右側の黄色い花はセイタカアワダチソウ（2007. 9. 22／長野県上田市御所千曲川）



写真5 林縁を覆うアレチウリ
（2007. 8. 11／埼玉県上里町忍保島川）



写真6 飼料畑を一面に覆うアレチウリ（2004. 7. 22／栃木県那須塩原市）（左）と
牛糞から発芽したアレチウリ（2004. 5. 17／栃木県那須塩原市）（右）

繁殖特性：果実は長さ1cm程の楕円形で鋭い棘を密生する（写真7）。1株当たり400～500個の種子をつけるが、25,000個以上との報告もある。種子には休眠性があるので土壌シードバンクを形成する。果実（液果）は風、雨により運ばれるほか、表面の棘で人や動物に付着して運ばれる。

影響：全国の河原や林縁で大繁茂し、在来植物と競争し、駆逐している。飼料畑でも大発生して農業被害が生じている（写真6）。



写真7 アレチウリの果実
左：若い果実
（2007. 9. 22／長野県上田市御所千曲川）
右：成熟して地上に落ちた果実
（2007. 10. 29／千葉県佐倉市鹿島川）

【アレチウリ属（スイキュオス属）の特徴】

アレチウリ属（スイキュオス属）が含まれるウリ科の植物は約 100 属に分類されており、そのうちの 8 属が日本に分布する。アレチウリ属の植物は熱帯アメリカ、太平洋諸島、オーストラリアに 35 種ほどが分布する。雑草として問題になるのはアレチウリに限られている。園芸植物等として利用される種類はない。

【近縁種・類似種との識別点】

果実から棘が欠如したものを品種トゲナシアレチウリ *forma ohtanus* として区別する文献もある。

アレチウリ属の在来種は日本にない。本種以外の野生化の報告はない。日本でみられるウリ科の植物の類似種としては、在来植物のカラスウリ *Trichosanthes cucumeroides* があげられる（写真8）。食用に栽培されるキュウリ *Cucumis sativus* やハヤトウリ *Sechium edule*（写真8）もアレチウリに似ているが、これらは野生化していない。同じくらいの大きさのつる性の在来植物のクズ *Pueraria lobata*（写真9）は、河原などでアレチウリと混生していることがある。これらを含めた識別点を表1に示す。



写真8 カラスウリ（2007. 9. 23／千葉県茂原市）（左）、
キュウリ（2007. 7. 16／京都市北区）（中）、
ハヤトウリ（2008. 11. 24／埼玉県日高市）（右）

写真9 アレチウリと混生する
クズ（2006. 8. 27／神奈川県横浜
市）（左）とクズの花
（2008. 9. 11／東京都墨田区向
島百花園）（右）



表1 アレチウリの近縁種・類似種の特徴

種 名	花や実の特徴		葉の特徴	
アレチウリ <i>Sicyos angulatus</i> 一年草 外来植物			・花は白色で小さく、たくさん集まる ・果実に鋭い刺があり、複数が集まる 	・3～7回浅く裂ける ・目立たない鋸歯がある
カラスウリ <i>Trichosanthes cucumeroides</i> 多年草 在来植物	 近縁種の キガラズウリ		・花は白色で、縁が糸状に分裂して大きい ・果実に刺はなく、長さ5～7cm、赤く熟す 	・3～7回裂ける ・明らかな鋸歯がある
キュウリ <i>Cucumis sativus</i> 一年草 栽培植物			・花は黄色くて大きい ・果実の刺は鋭くなく、細長い 	・3～7回裂ける ・明らかな鋸歯がある
ハヤトウリ <i>Sechium edule</i> 多年草 栽培植物			・花は白色で、小さく数個ずつ集まる ・果実に刺はなく、緑色で大きい 	・3～7回裂ける ・鋸歯はない
クズ (マメ科) <i>Pueraria lobata</i> 多年草 在来植物			・花は赤紫色で小さく、細長く集まる ・果実に刺はなく、莢に入っている 	・3枚の小葉からなる複葉 ・鋸歯はない

【参考文献】

- (1) 浅井康宏（1993）緑の侵入者たち（帰化植物のはなし）朝日選書．朝日新聞社．
- (2) 堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇（1989）世界有用植物事典．平凡社．
- (3) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（1982）日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類．平凡社．
- (4) 清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七（2005）牧草・毒草・雑草図鑑．畜産技術協会．
- (5) 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七（2001）日本帰化植物写真図鑑．全国農村教育協会．
- (6) 清水建美（2003）日本の帰化植物．平凡社．
- (7) 高柳繫（2001）アレチウリの防除はタイミングが大切．日本帰化植物写真図鑑、pp. 200-201．全国農村教育協会．
- (8) 竹松哲夫・一前宣正（1987）世界の雑草Ⅰ 合弁花類．全国農村教育協会．
- (9) 山岡文彦（1978）帰化植物 100 種 最も身近な帰化植物 100 種の渡来、形態、生産地、分布．ニューサイエンス社．